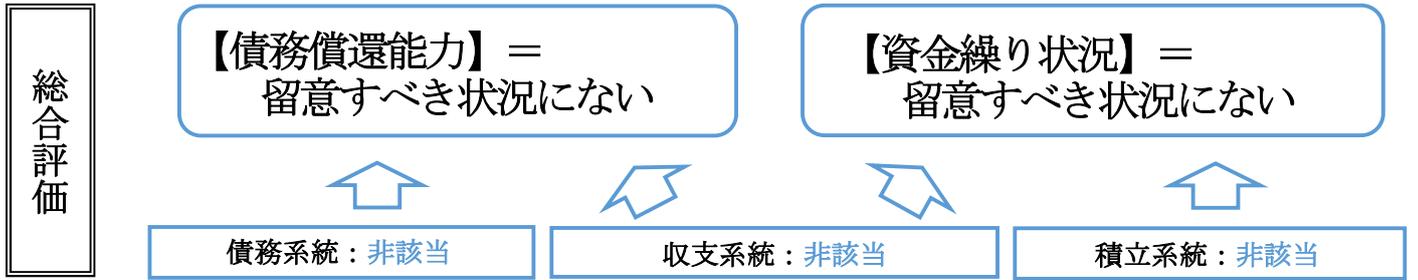


令和5年度決算における京丹後市の財務状況把握の結果 ヒアリングを踏まえた総合評価（要約）



財務指標

債務償還能力(①、②、③)		資金繰り状況(③、④)	
① 実質債務月収倍率	② 債務償還可能年数	③ 行政経常収支率	④ 積立金等月収倍率
一月当たり収入の何ヶ月分の債務があるかを見る指標	一年間で生み出される償還原資の何倍の債務を抱えているかを見る指標	収入からどの程度の償還原資を生み出しているかを見る指標	一月当たり収入の何ヶ月分の積立金があるかを見る指標
9.2月 ↓ 16.3月	6.4年 ↓ 10.1年	13.4% ↑ 11.9%	4.2月 ↓ 1.6月
18月	15年	10%	3月
24月		0%	1月

R5 ↓ R10

現状

<収支系統>
 人事院勧告等に伴い人件費が増加しているほか、ふるさと納税確保に向けた施策等に伴い物件費が増加したことなどにより、行政経常収支率は11.9%と低下しているものの、基準値(10.0%)を上回っているため、現状、収支低水準に該当していない。

<積立系統>
 普通交付税合併特例措置の逡減及び終了に対応するため、その他特定目的基金を取り崩しているものの、急な災害等が発生した場合の財政需要への対応や将来の収入減少に備え財政調整基金等を積み増していることから、積立金等残高の減少幅は小幅にとどまっている。
 その結果、積立金等月収倍率は4.2月と低下しているものの、基準値(3.0月)を上回っているため、現状、積立低水準に該当していない。

<債務系統>
 平成28年度以降、普通建設事業の実施に際しては国庫補助金等の財源を最大限活用しながら起債の抑制に努めたことなどにより、地方債残高は大きく減少していることから、実質債務月収倍率は9.2月と基準値(18.0月)を下回っているため、現状、債務高水準に該当していない。

留意点

<病院事業会計への繰出しについて>
 病院事業会計への繰出比率が医師等の人件費の増加等により、高い水準となっているほか、資金不足が発生している状況にある。今後の人件費の増加や諸物価の高騰等により市立病院の経常赤字が拡大する可能性を踏まえると、市立病院の経営状況については今後も的確に把握し、同会計への繰出し等が一般会計に与える影響については留意する必要がある。

<今後の財政運営について>
 貴市では今後、様々な大型事業が控えていることや人事院勧告などにより人件費の増加が懸念される中、財政調整基金等の大幅な取崩しを見込んでいるため、将来の財源確保が課題となっている。そのため、令和7年6月策定の「財政強靱化戦略」等に基づき、自主財源の積極的な確保や経費削減の取組を着実に実施し、持続可能な財政運営を行うことが望まれる。